

行われた質疑から

予算審査特別委員会

平成29年第1回定例会では、29年度予算の審査を行いました。予算審査の方法は、議長を除く議員全員で構成する予算審査特別委員会（今野裕文委員長、藤田慶則副委員長）を置き、3月10日から17日までの6日間で審査をし、いずれも原案どおり可決すべきものと決定しました。主な質疑の内容を掲載します。

総務部門

質問 監査委員会より指摘をされている法令遵守と、付帯意見による内部統制の確立についての検討内容は。

答弁 職員、人事部門、各部所内の役割を明確にすると共にコンプライアンス（法令遵守）研修を実施し、職員自らが自覚されるよう対策を講ずる。

質問 人事政策において国は働き方改革を進めているが、市において改善に向けての具体的検討内容は。

答弁 メンタルヘルス、健康診断を行い職員が安心して業務遂行できるように務める。仕事の偏りがなく働く環境が

より良くなるよう改善を行う。

質問 公共施設等総合管理計画策定については国からの交付税措置はあるのか。市民との情報共有を図り、スピード感を持つて策定すべきと考えるが。

答弁 29年度において現実に近い管理計画を策定する。また、国からの徐却債が適用される部分については28年度中に策定する。基となる将来費用は総務省算定額と現実にはかけはなれている部分があり詳細に精査を行い全体の目標を立案する。また、市全体の施設がどうあれば良いのかを含め市民説明を行う。

質問 6次産業化においては他市に誇れる農畜産物によって進めていく方針

であるが、主要作物を主体とした6次産業化に取組むべきと思うがその考えについて伺う。

答弁 市のブランド力向上を狙いに実施をしている。前沢牛、奥州牛など奥州市産農産物を主体に進めているが、今後は担当部と連携しどの方向が良いのか検討する。

質問 地区センターの指定管理に問題は生じていないのか、また、協働のまちづくりアカデミーとの関係はどのようになっているのか。

答弁 給与支払いにとまどいがあったが現在は円滑に処理されている。施設が老朽化しているので修繕は必要であると思われる。協働のまちづくりアカデミー修了生は地区センターやNPOなどで地域で係わりをもち役割を果している。

教育厚生部門

質問 就学援助について、入学時にお金がかかるので、入学前に支給できないのか。

答弁 適切な支援ができるように前倒し支給の検討をすすめている。返還の

生じる恐れもあり、問題点を整理している。

質問 昨年、保育士が年度当初から定員数を確保できず、待機児が例年より多く発生したが。

答弁 年度途中で保育需要が増えることに見合う保育士数を年度当初から確保する。

質問 認定こども園の新設実施設計において、事業計画がまだ定まっていないうのに、予算計上しているが。

答弁 待機児解消を急ぐため、また、合併特例債を活用するためには止むをえない。

質問 博物館や記念館に勤務する学芸調査員の待遇改善と学芸員の採用の方針は。

答弁 調査員の報酬を増額計上した。世界遺産追加登録や市内の多くの文化財を扱う学芸員を平成29年度1名採用予定である。

質問 社会福祉施設等が洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域に立地している施設数は。

答弁 市所管分の82施設のうち、洪水浸水想定区域に13施設、土砂災害警戒区域に8施設である。

次のページは「予算審査特別委員会」